

平和を願い、核兵器のない世界を...

* 原爆被爆地を訪れて感じたこと

新津市は、平和を願う人々と手をつなぎ、核兵器を廃絶して世界平和に貢献しよう、昭和六十一年の九月、「非核平和都市」を宣言しました。そして、この非核平和意識の一層の高揚を図るため、原爆被爆地の広島または長崎を訪れ、平和について研修を行う市民の方に、その費用の一部を補助する制度(非核平和研修補助事業)を設けています。

平和のありがたさを再認識

五十嵐 毅(荻島二、学生)



平和公園噴水前の五十嵐さん

私は、二十歳の新津市民の代表として、原爆が落とされた長崎を訪れた。この旅行は、「原爆とはどういふものなのか」、「四十三回目の原爆記念日の雰囲気はどういうものなのか」などを、直接肌で感じるためのものであった。

長崎という街は、金比羅山(三六六)によって二

分され、おおまかに言うと、北側の浦上、南側の山手、中島川、寺町に分けられる。昭和二十年八月九日に原爆が落とされた地区は、北側の浦上であった。この原爆の威力は、三日前に広島に落とされたものの数倍あった。しかし、長崎は山で二分されているため、広島のように街全体が焼け野原にならなかった。

長崎の原爆の惨劇は、長崎国際文化会館の中で振り返ることが出来る。今までに見たこともないような写真、遺品の数々を見ていると、目を覆いたくなったり、胸を締めつけられる思いをしたりした。「百聞は一見にしかず」という言葉がある。長崎を訪れたときには、一番最初に長崎国際文化会館に行つてもいい。

さて、長崎に行つた素直な感想を述べたいと思う。私が想像していたことは、駅前広場では、スピーカーから原爆反対などを訴える

大きな声で流れる、そういう運動をする人たちがあふれている光景であった。実際、私たちがテレビで見ると、そのような光景だけが放映されていた。しかし、駅前には静かであった。これには、少し驚かされた。そして、長崎市民と思える人たちは、いつもと変わらないように仕事をしていた。原爆が落とされた長崎の人たちでさえ、原爆記念日にこんな冷たい感じがするのだから、今の若者たちが戦争、原爆などに関心が薄くなっているのは、当然に思えた。原爆のことで盛り上がりつづけているのは、原水爆禁止大会が開かれていた市民会館のあたりだけだったようである。式典に関しても、四十三回目とあつて、ただ単に形式化されているように見えた。また、

私を含めて観光客が多く、観光の呼びもの的に見ええたことが、何となく残念であった。

この旅行で印象に残ったことは、平和公園の存在であった。今の公園は、きれいで、この名所になつてきているが、この公園の存在によって、四十三年前の悲劇がこっぴどく集中させられているように思えた。しかし、実際は、浦上という地区全体が悲劇の場であり、小さな路地や畑などで多くの人たちが亡くなったのである。訪れる人たちは、その道を何気なく通り過ぎ、平和公園に着いたときだけ折つて、終わりにしてしまふ。平和公園に祈りに行くのではなく、現在と当時の悲惨な状況を比較すべきである。そして、その違いに気づき、今の平和のありがたさを再認識しなければならぬ。

「歴史は繰り返す」と言われるが、二度と同じ過ちを犯さないようにしなければならぬ。

子どもたちに暴力を憎む心を

佐藤尚子(日宝町、学生)

初めて訪れた広島市は、清潔で明るく、近代的な線にあふれた街でした。重要な建築物は、街の中心に集まっていた。整然と区画された商店街の間を、バスや路面電車がびりびり走り、八月中旬の市街地は、人々でいっぱいでした。四十三年前の悲惨な事件を感じさせるものは、全くといってよいほど見あたりませんでした。平和記念資料館に入りま

した。入口付近でざわついた人々も、奥へ進むにつれ、目を写真に奪われて黙り込みます。じりじりと進み、小一時間後に出口にたどりついたときには、皆一様に脱力していました。「戦争は、絶対にしてはならないです。原爆だけではありません。人間は決して争い、殺し合つてはいけません。」原爆慰霊碑に刻まれた、安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから。という短い文章が、生き残つた者たちの責任と祈りを完全に表現していたことに、

遅ればせながら気づかされた。それ以後は、被爆当時の写真集や被爆者の手記を集めて読みあさり、資料館の隣にある平和記念館では、語り部と呼ばれる人々の話も聴きました。その口調は、淡々としていて、生き地獄を味わつたという事実を感じさせる真の迫力を持つていました。多数の手記の中には、匿名のものもかなりありました。それは、結婚したいがために被爆の事実を隠しているような場合だそうでした。四年を経た今でも、被爆が原因で亡くなる方が後を断ちません。被爆者にとつて戦争は、過去の悪夢などではなく、未だ終結しない現実の問題なのです。

資料館で木炭のような焼死体を見て突つている子どもたちに、暴力を憎む心を養わせるのは、私たち大人の使命です。被爆後の様子を語る被爆者の言葉には、必ず「お母さん! お母さん!」と助けを求める声があり、それに充満していたことが述べられています。全身やけどの幼児の唇が「カーチャ」を呼んでいるVTRを見るとき、私たち女性が、母親が、わが子と平和を守つていかなければならないことを強く感じました。

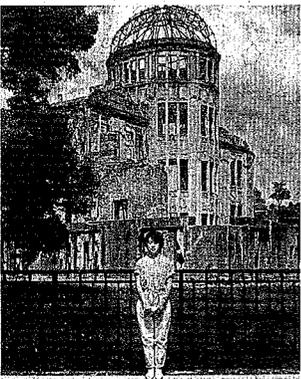
新津市でも、原爆写真展などを開催しています。私も見学したことがありますが、より多くの、できれば全市民が原爆資料を目にされることを心から希望します。貴重な経験をさせて頂き、どうもありがとうございます。

非核平和都市宣言

私たちは 私たちの新津を
緑豊かなまちに
文化の香り高いまちに
そして お年寄りと子供が大切にされる
あたたかいまちにしたいと願っています
この願いは
一瞬にして生きとし生けるものの生命を奪い
あらゆるものを破壊しつづす核兵器とは
決して共存できません
私たちは
平和を願うすべての国の人々と手をつなぎ
核兵器の完全廃絶を強く訴えます
美しい未来と平和を 子供たちに伝えることが
私たちの責務と確信するゆえに
私たちは ここに平和への誓いを新たにし
非核平和都市を宣言します

1985年9月

新津市



原爆ドーム前の佐藤さん

お買物、ご用命は市内で

斎・法要は専門店 河太郎会館へお電話下さい

- 確実な時間と信頼出来るお料理でお客様に対応しております。
- お料理は¥3,500~¥8,000迄10種類 お好きな品をお選び下さい。
- お料理・お菓子・引出物・お赤飯、合わせてどのようなご予算にも応じます。

新津市善道町2丁目15-6 (氏子会館前)

河太郎会館 ☎24-1131

毎度ありがとうございます
当店独占☆特別 MeNu

- ・O2 & AHA パーマで損傷毛にサヨナラ!!
- ・只今評判の「発毛促進」etc VIVAGEN 新発売!
- ◆ 公休日のご案内~年中火曜日のみ

渡辺美容院 ヘアーステーション
わたなべ駅前店
本町3 能代川寄りのワラ通り
☎(22)0626

新津駅前通り ☎(22)2611

お慶びの余韻
手づくりの式菓子

新津銘菓 秋葉もち 栗太郎

お菓子づくり三代
田家屋
新津市本町四丁目
TEL (22) 0430

本町4
チュールアップ店
お店紹介